

SEAFOOD PROCESSING EUROPE 2009 出展レポート



国際部 係長 柳井理恵

日本の企業は閉鎖的なのか、保守的なのか、ヨーロッパに現地法人や支店があるところを除いては現在ヤナギヤの他、数社しかこの展示会には出展していません。出展には大きな意義があると思え、ヤナギヤがこの展示会に毎年出展していることはお客様にも認知して頂いているようで、日ごろなかなか会えない、そして最近疎遠になっているお客様もブースに立ち寄って下さり、情報交換を行うことができました。

今回は、新たな取り組みとして卓上式の豆腐製造装置「mini-J」を展示し、豆腐を作って実際に試食してもらうよう試みましたが、残念ながら期待したほどの効果はありませんでした。それは、シーフードショーに豆腐を出したことで、豆腐をスリミと勘違いしている人がいたことです。いくら日本食ブームとはいえ、私たちが思っているほど日本風な豆腐がヨーロッパの人々に受け入れられていないことは明らかなようで、絹豆腐の柔らかさがヨーロッパでは馴染みがないということが、今回の試食で私を感じたことです。ただ、ヨーロッパの人々にはウケが悪かった「醤油をかけた豆腐」が、ロシア人には好評だったことがとても不思議でした。パニラ風味の豆腐も作ってみました。これも人気がありませんでした。今後は豆腐の味付けも「フレンチ風」のレシピを検討し直さなければと思います。逆に、来場者の方からはヨーロッパの人は、味噌汁を好んで飲むので、味噌汁の中に豆腐を入れて出すというのはどうだろうか?とアドバイスしてくださる人がいらっしゃいました。

このシーフードショーでは既に9回目の出展となり、カニ蒲ラインのメーカーとしては認知されていることは感じますが、それ以上、それ以外の新しいものや画期的なものを発信していくということが、これからのヤナギヤに課せられた課題だと感じました。また、豆腐については、ヨーロッパで豆腐がもっと受け入れられるためには、ヨーロッパの人々の好みをもう少し調査する必要があるようにも思いました。

国際部 次長 谷村俊文

弊社のSEAFOOD PROCESSING EUROPEへの出展も今年で9回目となりました。既に定着したヤナギヤブースへの来場者もカニカマメーカーを始め、多くの訪問がありました。しかしながら、昨年からの世界的金融危機の影響のためか、「カニカマ市場に新規参入したい」とのことで訪問されたお客様は例年よりも少なかったようです。今年はカニカマメーカーの出展において特筆すべきは、ロシアの顧客、ロシアンシー社が今年始めて出展されたにもかかわらず、ロシア、スペインのカニ蒲大手メーカーと肩を並べるほどの巨大ブースを構えておられたことで、カニカマ販売への意気込みを感じました。また、ブース内にはプーチン首相の大きな写真を飾り、政治的バックアップをも背景として、ビジネスチャンスの拡大を図っておられるようでありました。



ロシアンシー社ブースでの打ち合わせ

我々としては、このような将来的にも優良な企業をバックアップしていくと共に、現在、EUのカニカマ市場においては、価格競争により品質の低下が進み食材として本来の地位を失いつつあるカニカマ市場を、メーカーと協力して市場回復に力を入れていかなくてはならないと感じています。

カニカマ商品については、大手カニカマメーカー以外には全体的に2~3年前からバタリと目立たなくなってきたようにも思えますが、これもカニカマが定番商品として定着し、新商品としてPRの必要がなくなったことも意味しています。

また、今回は、中国からの出展が少なかったように感じられ、これは中国食品の衛生問題が世界的に大きく表面化し、EU向け輸出が減っていることが原因だと思われました。



第11回 ジャパン・インターナショナル シーフードショー

東京国際展示場【東京ビッグサイト】東2・3ホール

2009年 7月22日(水) ~ 7月24日(金)

全国蒲鉾品評会併催



通路を挟んで
左が全国蒲鉾品評会ブース、右がヤナギヤブース

7月22日~24日までの3日間、東京ビッグサイト東2・3ホールにて第11回ジャパン・インターナショナル・シーフードショーが開催されます。

昨年は蒲鉾業界の一大イベントでもある「全国蒲鉾品評会」が本展示会内で初めて開催され、結果としては従来の品評会とは異なり、バイヤーが多く訪れ、会場での商談会に発展するなど、新しい形も発見することが出来ました。

今年も「全国蒲鉾品評会」は、昨年に引き続き、10小間の展示スペースにて本展示会内で開催される予定です。当社におきましても昨年同様、全国蒲鉾品評会ブースに隣接して出展させて頂く予定であり、FOOMA同様、小型のIHフライヤーをはじめ播潰機や新型機種の出展を予定しています。是非、新しい形で開催される「全国蒲鉾品評会」へのご参加と同時に、ご休憩・ご談笑の場として、ヤナギヤブースをご利用下さい。